

ロボット介護機器 導入施設

日野療護園

【施設概要】

運営法人: 社会福祉法人

東京都社会福祉事業団

住所: 東京都日野市落川245-1

対象: 身体障害者

定員: 施設入所支援 50名

生活介護 55名

短期入所 4名



1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
コミュニケーション ロボット	OriHime	1	・コロナ禍であっても、分身ロボットの活用により、 余暇支援の充実、地域交流、介助負担の軽減を図るため。
	OriHime eye + Switch	1	・タブレット操作の出来ない重度の身体障害者であっても、視線操作による機器操縦を可能とするため

2 実施体制

・機器導入にあたり、サービス管理責任者・現場支援員を中心としたPTを設置。

・PT職員が現場支援員等に対してOriHimeの操作方法を説明することで、パイロット(OriHimeを操作する利用者)を養成するための支援員を増やし、徐々に現場で機器の活用ができるよう、体制を整えた。

・パイロットは、支援員のサポートを受けながら、リモート外出(買い物・散歩)の他、地域交流やイベントへの参加を体験できる体制を整えた。

3 課題整理

・新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出や面会が制限されているため、**余暇支援の実施が難しく**なり、利用者のQOLの維持及び向上が課題となっている。

・利用者の高齢化重度化により、支援員は通院や排泄、入浴、医療的ケア等の直接支援に多くの時間が割かれ、**余暇支援を実施する余裕がなくな**ってきている。

・移動支援やボランティア等の活用による支援員負担の軽減を図る方法もあるが、利用者との関係が構築できていない不特定多数の方に支援を任せるのは、難しい。

4 導入効果

・**コロナ禍において、余暇活動が可能**となり、支援の選択の幅が広がった。

・ロボットを介在させることで、保育園や大学との交流、採用説明会、地域イベント、スポーツ交流会、野菜販売イベントの実施など、**新たな交流の機会**が生まれた。

・利用者がOriHimeによる交流を楽しむ姿に触れることで、**利用者のストレングスに気付く**ことができた。

5 機器導入後の課題と解決策

・OriHime eye + Switchは、タブレットのように直感的な操縦ができず、パイロットの養成が進んでいないため、対象者を絞るなど、定期的に練習できる環境を整えている。

・契約している**Wi-Fiの通信会社の電波状況によって、OriHimeとタブレットの通信が途切れる**ことがあるため、通信会社の変更も検討している。

・**介助負担軽減のためには、ボランティア等の社会資源の活用が必要**であるが、ボランティア等の外部の社会資源の活用が、想定よりも下回った。今後、交流のあった学生や実習生、アルバイトの活用も含めて検討していく。